

# 第2次余土地区まちづくり計画書

(2022年5月～2032年4月)

みんなで創る<sup>明るい</sup>😊住みよい余土のまち

余土地区まちづくり協議会

## はじめに

これまでの10年を振り返ると、平成21年（2009年）7月5日に「みんなで創る元気で住みよい余土のまち」を目標に、余土地区まちづくり協議会（余戸・保免・市坪）が設立されました。

重点テーマとして

- \*安全で安心して暮らせるまち
- \*美しい環境が広がるまち
- \*若い力が伸びるまち
- \*世代を超えて交流するまち
- \*地域の歴史・文化に学ぶまち

を掲げ活動してきました。

平成23年（2011年）には、余土中学校検討委員会を設立。

平成28年（2016年）8月には、余土中学校が保免西へ新築移転。

平成29年（2017年）3月には福祉施設が、4月には公民館が現在地に移転。

平成29年（2017年）11月26日「創立記念式典・フェスティバル」開催。

式典には、野志松山市長はじめ来賓140名出席、及びフェスティバル参加者1000人と盛大に開催されました。

細かい活動としては、平成23年（2010年）に、余土地区まちづくり協議会ホームページ開設・花いっぱい運動と緑のカーテン運動。平成26年（2013年）に「余土ふるさとマップ」を作成し、全戸配布しました。

平成26年（2014年）には、余土地区活性化ポスターやロゴマークを募集し、ロゴマークは現在も活用しています。

平成31年（2019年）には、「余土ふるさとマップ」の改訂版を作成し、全戸配布。

公共関係では、市坪IC～余戸南IC 開通式典に共催参加。

この10年間に余土地区としての大きな課題でした「余土中学校新築移転問題」を、余土中学校整備等検討委員会を中心に、行政と協議し、余土中学校新築移転、中学校跡地への、公民館改築移転・福祉施設の設置・消防ポンプ蔵置所が設置されることができました。

これからの10年間は、

「みんなで創る<sup>明るい</sup>住みよい余土のまち」を目標に

2022年から「第2次新しいまちづくり計画」に基づいて活動を始めることとなります。

重点テーマとして

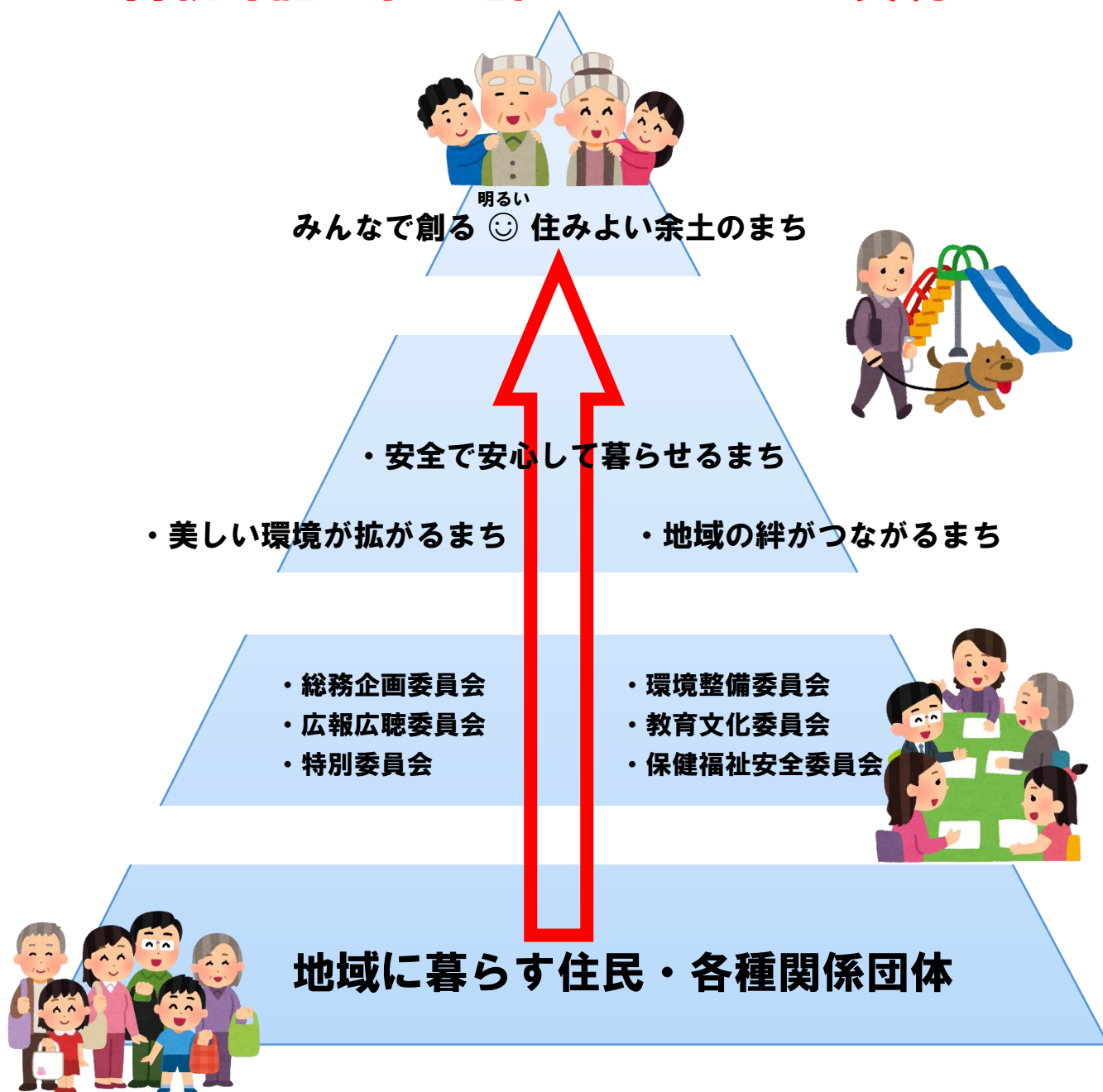
- \*安全で安心して暮らせるまち
- \*美しい環境が広がるまち
- \*地域の絆がつながるまち

を骨子として具体的な取組みを推進して、目標の実現に向け各種団体や行政とも連携をとり活動していきたいと考えますので、より一層のご協力をお願いします。

余土地区まちづくり協議会  
会長 今田 紘一

# 余土地区の目指すまちづくりチャート

## 持続可能な余土地区のまちづくり実現へ



具体的な取組みは下記のような期間、役割分担で進めていきます。

期 間	短期	早急（1～3年）に取り組む事項
	中期	近いうちに（3～5年）に取り組む事項
	長期	いずれ（5～10年）に取り組む事項
	継続	現在取り組まれているが、今後も取り組む必要のある事項
役割分担	住民	住民が取り組む事項（住民には、まち協・町内会・公民館が含まれる）
	協働	住民と行政が協働で取り組む事項
	行政	行政が取り組む事項

まちづくり  
の目標

みんなで創る😊  
住みよい余土のまち

3つのテーマ

重点的な取組み

安全で安心して  
暮らせるまち

防犯・防災・交通安全活動の推進

子育て支援の拡充

健康増進活動の推進

美しい環境が  
広がるまち

環境美化の強化

エコ活動の推進

緑化の推進

地域の絆が  
つながるまち

地域のリーダーとなる若者の育成

地域の拠点となる場所の整備

スポーツができる環境の整備

国際交流の促進

余土の魅力づくり

レクリエーション活動の充実

地域の情報収集とその発信

マナー向上・あいさつ運動の拡充

郷土の歴史・文化学習活動の充実

史跡の掘り起こしとその発信

伝統行事の継承と掘り起こし

## 安全で安心して暮らせるまち

### 重点的な取組み⇒防犯・防災・交通安全活動の推進

具体的な活動	期間	役割分担
防犯灯の設置と管理	継続	協働
防災訓練の実施	継続	協働
河川・水路危険箇所の調査、整備	継続	行政
カーブミラー等交通安全設備の設置および管理	継続	協働
通学路等歩道の交通安全	継続	協働

### 重点的な取組み⇒子育て支援の拡充

具体的な活動	期間	役割分担
子どもの見守り	継続	住民
子どもの居場所作り	中期	協働
子育てサークル等の拡充	短期	住民
保育ボランティアの設置	短期	協働

### 重点的な取組み⇒健康増進活動の推進

具体的な活動	期間	役割分担
高齢者の体力づくり	継続	住民
健康増進体操の普及促進	継続	住民
健康づくり教室の開催	短期	協働
余土ウォーキングコースの設定	短期	住民

## 美しい環境が広がるまち

### 重点的な取組み⇒環境美化活動の強化

具体的な活動	期間	役割分担
町内大清掃の実施	継続	住民
環境美化に関する学習会の実施	短期	住民
ゴミ集積場の美化活動	短期	住民
ポイ捨ての禁止運動	短期	住民
ゴミ減量への意識啓発運動	中期	協働

### 重点的な取組み⇒エコ活動の推進

具体的な活動	期間	役割分担
環境学習会の実施	継続	協働
リサイクル運動の啓発、普及	継続	協働
エコ活動意識の向上	継続	協働
エコイベントの開催	短期	協働

## 重点的な取組み⇒緑化の推進

具体的な活動	期間	役割分担
花いっぱい運動の推進	継続	住民
緑のカーテン推進活動	継続	住民
余土の木・花の普及	短期	住民

## 地域の絆がつながるまち

### 重点的な取組み⇒地域のリーダーとなる若者の育成

具体的な活動	期間	役割分担
地域のリーダーとなる若者をリストアップし育成	短期	住民
リーダーとなる人材の組織化	中期	住民
地域団体への若者の参加呼びかけ	継続	住民
地区各種団体役員への若者の登用	継続	住民

### 重点的な取組み⇒地域の拠点となる場所の整備

具体的な活動	期間	役割分担
市有施設の充実	長期	行政
余土支所の移転・新築	中期	行政
重信川・石手川河川敷の活用・整備	長期	行政
外環状線高架下の活用・整備	長期	行政

### 重点的な取組み⇒スポーツができる環境の整備

具体的な活動	期間	役割分担
球技ができる広場の整備	長期	協働
各種スポーツクラブの育成	長期	協働

### 重点的な取組み⇒国際交流の促進

具体的な活動	期間	役割分担
海外の人との交流促進	中期	協働
学校の ALT 教師との連携	中期	協働

### 重点的な取組み⇒余土の魅力づくり

具体的な活動	期間	役割分担
余土の特産品づくり	中期	住民
余土の魅力の PR	継続	住民
余土の産直市の開催	中期	住民

## 重点的な取組み➡レクリエーション活動の充実

具体的な活動	期間	役割分担
各種スポーツ活動の拡充	継続	住民
レクリエーション大会の開催	継続	住民
ニュースポーツ、レクリエーションの紹介	継続	住民
三世代交流キャンプの開催	短期	住民
文化活動イベントの開催	短期	住民
各種講演会、講習会の開催	継続	協働

## 重点的な取組み➡地域の情報収集とその発信

具体的な活動	期間	役割分担
まちづくりホームページの拡充	継続	住民
情報の集約、発信されるシステムの構築	短期	住民
まちづくり通信の充実	継続	住民

## 重点的な取組み➡マナー向上・あいさつ運動の拡充

具体的な活動	期間	役割分担
公共心、おもいやりの涵養	継続	住民
あいさつ、声かけ運動の推進	継続	住民

## 重点的な取組み➡郷土の歴史・文化学習活動の充実

具体的な活動	期間	役割分担
余土の歴史、文化財めぐりの開催	継続	住民
余土の歴史講座の開設	短期	住民

## 重点的な取組み➡史跡の掘り起こしとその発信

具体的な活動	期間	役割分担
史跡の調査、マップの作成	短期	協働

## 重点的な取組み➡伝統行事の継承と掘り起こし

具体的な活動	期間	役割分担
余土地区のお祭りなど伝統行事の調査、継承等	短期	住民

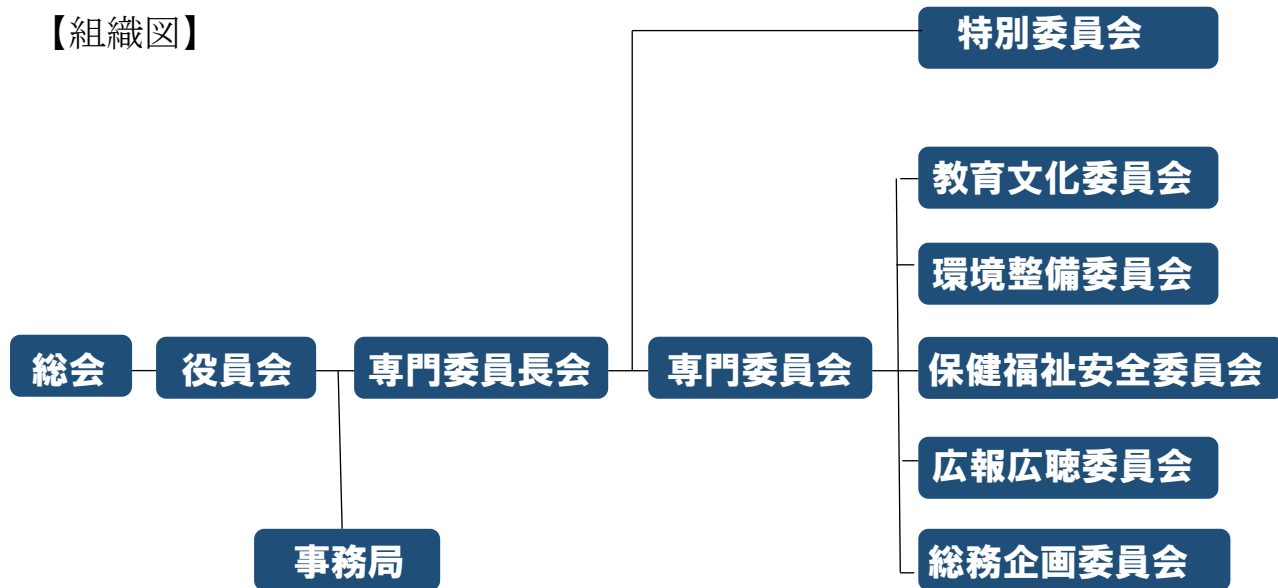


# 余土地区まちづくり協議会

## 【沿革】

平成 18 年	余土地域活性化検討委員会が発足
平成 19 年	松山市から設立承認通知を受理 「余土地域活性化検討委員会」を「余土地区まちづくり協議会設立準備会」と名称変更し、篠崎嘉一氏が会長に就任
平成 19 年	まちづくり通信 Vol.1 が発行
平成 21 年	「余土地区まちづくりアンケート」を実施し、調査結果を全戸配布
平成 21 年	余土地区まちづくり協議会設立総会が開催。初代会長に長瀧憲正氏就任。事務所を保免上分館に設置
平成 22 年	通学路点検の実施。ごみステーション実態調査。歴史講演会の開催
平成 23 年	余土地区まちづくり協議会第 2 代会長に本田精志氏就任。「余土地区 防災研修会」開催。余土の花「たますだれ」苗の収集・育成・啓発を実施 「余土中学校特別委員会」が「余土中学校整備等検討委員会」として発足 余土地区まちづくり協議会ホームページ開設
平成 24 年	花いっぱい運動・緑のカーテン運動を開始
平成 25 年	余土ふるさとマップを作成し、全戸配布
平成 26 年	余土地区まちづくり協議会第 3 代会長に今田紘一氏就任 余土地区まちづくり活性化ポスター・ロゴマーク募集
平成 27 年	市坪 IC～余戸南 IC 開通式典に共催
平成 28 年	余土中学校整備等検討委員会と行政の協議の基、保免西に余土中学校新築移転完了。
平成 29 年	余土中学校整備等検討委員会と行政の協議の基、余土中学校跡地に、公民館・保育園・児童クラブの移転、子ども総合センター・消防ポンプ蔵置所が設置。それを機に、余土中学校整備等検討委員会は解散
平成 29 年	事務所を余土公民館へ移転
平成 29 年	「余土まちづくり文庫」設立
平成 29 年 11 月 26 日	「創立記念式典&フェスティバル」開催
平成 30 年 8 月 8 日	「第 1 回余土子ども夏フェス」開催
平成 31 年	余土ふるさとマップ改訂版を作成し、全戸配布
平成 31 年 2 月 10 日	「第 1 回余土検定」実施
令和元年	「余土ぶらっと見て歩き」「余土の風景 1 (余土の風にふかれて)」の発売開始
令和 3 年 7 月	「夏休み子どもの居場所作り」開催
令和 4 年	第 14 回総会において、第 2 次余土地区まちづくり計画書が承認

## 【組織図】



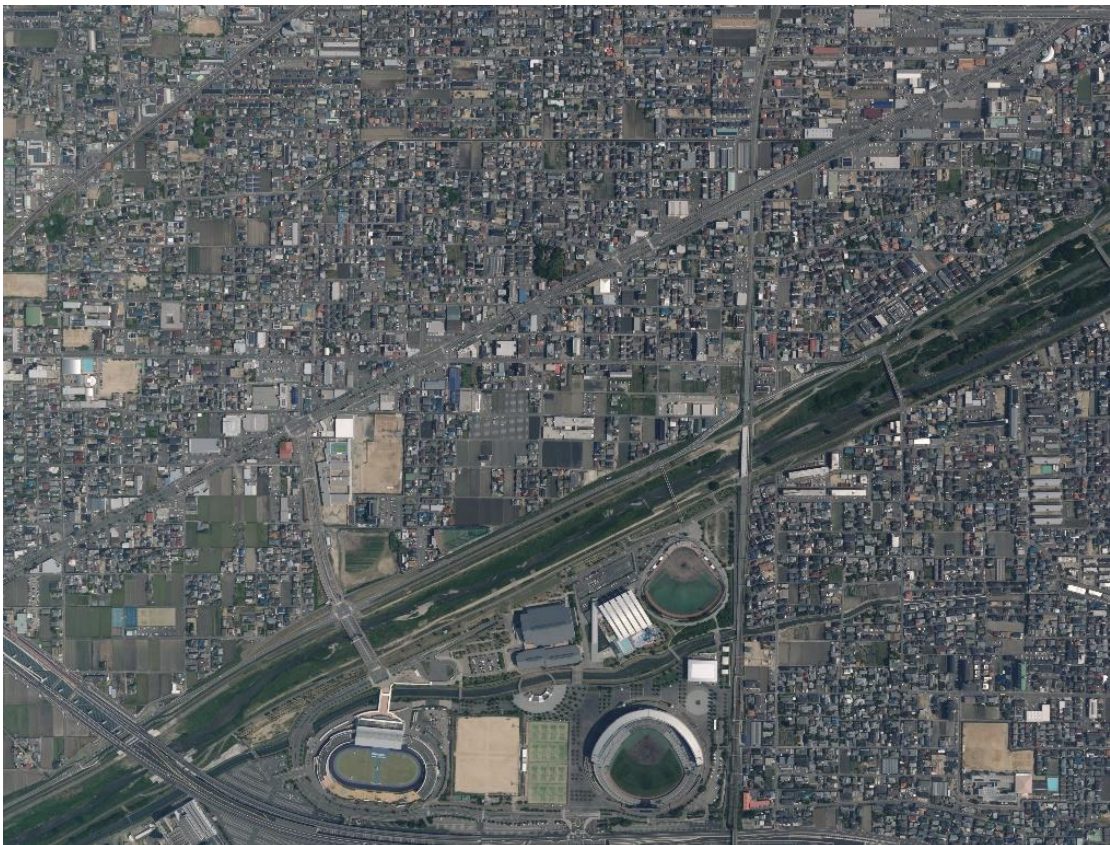


## 余土地区の概要

余土地区は、松山市の南西部に位置し、1889年（明治22年）12月15日に町村制施行により、それまでの伊予郡市坪村・保免村・余戸村が合併し、1990年（明治23年）3月に伊予郡余土村として発足、これにより初めて「余土」の名称が生まれました。その後1897年（明治30年）4月1日、温泉郡余土村に変更となり、1954年（昭和29年）10月1日に松山市に編入されました。古くは律令時代まで遡ることのできる歴史ある地区です。

昔は民家が少なく、「<sup>あまりベ</sup>餘戸の里」と呼ばれていましたが、令和3年4月現在では人口は23,418人、世帯数は9,953世帯と、年々人口が増加するとともに、急速な宅地化が進み、田園都市へと移り変わってきました。

地区には、石手川や重信川といった河川があり、土手には菜の花をはじめ様々な花が咲き、松山中央公園や石手川緑地公園が整備され、地区住民に憩いと安らぎを与え、健康づくりの場としても親しまれています。また、三島大明神社の手引き松や日招八幡大神社のおとよ石といった歴史的財産や、正岡子規をはじめとする多くの句碑が建之される俳句の盛んな地区でもあります。



# 余土村歌

大正 11 年 (1922 年) 制定

たく せん きー よく なが るる ち よご ほう めんに いち のつぼ  
さん ぜんにー んの むら びと が こころの おごと むつ みあう  
まこ とはくー もの うえ までも き こえ あげ たる よど のむらー

一 拓川たくせん清く 流るる地

余戸保免に 市の坪

三千人の 村人が

心の緒おごと琴 むつみあう

至誠まことは雲の 上までも

聞こえあげたる 余土の村

二 都の風にあこがれて

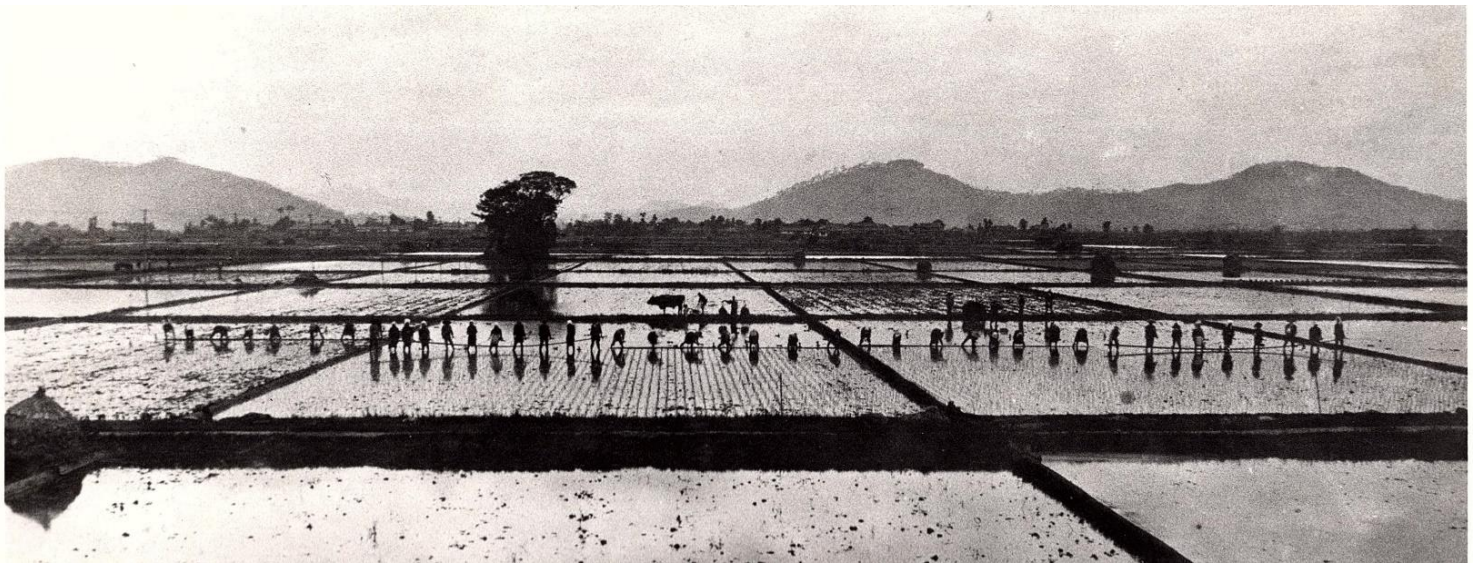
荒すさめる人の 多き世に

共同一致 つつましく

倦うまずたゆまず 献身の

努力は今や 現れて

その名かがやく 余土の村



(現在のさくら小学校付近)

平成 26 年ロゴマークは、池田大輔氏により作られました。

このロゴマークの意味は、

- ・市坪・保免・余戸の 3 地区が手を取り合い共に作り上げる。
- ・男性、女性を問わず平等かつ公平に協議ができる会。
- ・より良いまちづくりを目指す事、次世代を考えて目線は上向きに。
- ・緑色は平和的、友好的な証。黄色は明るく活発な証。
- ・白いハートは純潔。嘘、偽りが無い事を示しています。





編集・発行 余土地区まちづくり協議会

〒790-0044

松山市余戸東4丁目4-34 ☎090-8979-4101

発行年月日 2022年（令和4年）6月1日

制定日 2022年（令和4年）5月24日



ホームページ



ふるさとマップ